

普及活動情勢報告（令和4年12月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

これからの農地をどうするぜ！？ ～奈半利町農業委員会勉強会～



11月29日、奈半利町役場で農業委員8人を対象に地域計画作成に向けた勉強会を行いました。

農業改良普及課からは、実質化された人・農地プランより奈半利町の農地の状況等について共有し、農地の維持に向けた地域での話し合いの必要性等について説明しました。

委員からは、「地域で話し合っていく必要があることは理解できたが、農地の受け手がない」といった意見があり、今後の農地維持に向けて、担い手の確保等への課題が出されました。

農業改良普及課は、今後、関係機関と連携しながら、担い手の確保に向けた地域での話し合いを推進していきます。

「SAWACHI」を活用したデータ駆動型農業の実践 ～「ナス通信」の配布～



農業改良普及課室戸支所はIoTクラウド「SAWACHI」を利用している管内のナス生産者5戸を対象に、11月中旬から毎週、環境・生育・出荷量のデータが見える化した「ナス通信」を配布し、指導に役立てています。

生産者からは、直近の日射量や炭酸ガスなどのハウス内環境や着果数、出荷量の推移が一目でわかりやすいと好評でした。また、平均温度など数値も併記してほしいとの声があり、要望に応じて改良を重ねていく予定です。

室戸支所では、引き続き「ナス通信」で協力農家の管理改善を目指しながら、JAと連携して「SAWACHI」利用者の拡大を図ります。

営農相談を実施しました ～芸東集出荷場ナス部会～



12月5日、農業改良普及課室戸支所はJA営農指導員とともに、室戸市の芸東集出荷場で今期最初の営農相談を実施し、ナス生産者38人に厳寒期の温度、かん水、病害虫等の管理を指導しました。

生産者からは、品種を変えて管理が難しくなったことや、生産資材が高騰している反面、価格低迷により経営が厳しいという意見がありました。

室戸支所では、引き続き新品種の事例紹介や環境・経費投入量の見える化による効果的な管理を指導します。

農業基礎研修講座が修了（全6回出席率76%）



12月13日、第6回農業基礎研修講座を開催し、農業経営、ナスの栽培中後期の管理について、新規就農者等19人が学びました。農業経営では「記録を取り、残すことで経営の現状把握を行い、目標達成に向けて取り組むことの大切さ」、栽培管理では、「ハウス内環境データ等を元に厳寒期の温度管理、病害対策」などの説明をしました。

同講座全6回の出席率は76%（受講申込者25人）で、最後に修了証書を一人ひとりに授与しました。

農業改良普及課では、引き続き受講生への支援を継続するとともに、次年度も内容を充実し同講座を実施していく予定です。

指導側も切磋琢磨 ～データ駆動型農業に向けて～



12月14日、農業改良普及課は「ゆめファーム全農こうち」においてデータ活用勉強会を開催し、生産者、営農指導員、普及指導員16人が参加しました。

勉強会では、JA全農の担当者から植物生理をふまえながら、養液栽培での草勢コントロールの考え方、環境データや生育データを活用した管理の実際について説明をうけました。併せて、現地ほ場では、ナスのつる下ろし栽培の生育状況を確認しながら、時間不足となるほど、どのように管理を行っているのか多くの質問がされました。

農業改良普及課は、データ駆動型農業の取り組みが前進するように、現場での事例も参考にしながら、関係者の技術の向上に努めます。

みんなで連携!担い手確保対策!! ～管内市町村等担い手確保対策担当者会～



12月19日、管内市町村とJA、県で担い手確保に関する横の連携強化を図るため、担い手確保対策担当者会を初開催しました。

各市町村やJAが担い手確保のために行っている各種取り組みや課題、他の市町村に聞いてみたい事などを互いに出し合い、「新規就農者の土地確保はどうしているか」等の具体的な事例を交えて情報交換が行われました。さらに、より議題を絞り、勉強会も含めて開催したいとの意見もあり、第2回は次年度の夏頃に開催することとなりました。

農業改良普及課ではこういった連携、情報共有できる場をより充実したものとし、関係機関と協力しながら担い手確保に取り組んでいきます。

ユズの園地調査を実施しています！ ～JA 高知県安芸地区柚子部畑山支部～



農業改良普及課は、令和4年度からJA 柚子部畑山支部、安芸市と連携して、畑山支部のユズの園地調査を実施しています。

この調査を通してユズ園地台帳を作成し、①ユズの栽培状況の把握、②担い手への園地集積の促進、などに活用していきます。今年度は、1月末までに支部内の4地区で調査を行う予定です。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携しながら調査を実施し、園地台帳の作成から活用へ向けた支援をしていきます。